

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年3月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600043		
法人名	社会福祉法人 黒潮福祉会		
事業所名	グループホーム 和夏		
所在地	高知県幡多郡黒潮町佐賀3179-7		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を180度のパノラマで望み、四季の景観を365日満喫して穏やかに過ごせる環境にある。同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターと合同で幅広く地域と交流したり、緊急時等における事業所間の連携、協力体制も整っており、入居者の安全と豊かな暮らしを支援している。また、家庭生活の維持に職員全員で取り組み、家族の面会は勿論歓迎し宿泊もできるようにしている。畑の収穫は何よりも楽しみであり手に触れることができ、食材としても活用している。職員は「今日の笑顔より、明日の笑顔を求めて」を忘れずに毎日のケアに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992600043&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域から離れた太平洋を一望できる高台に立地し、自然豊かな環境のなかで、利用者は四季を常に体感しながら過ごしている。事業所は同法人が運営する介護施設等に隣接しており、合同行事等を通じて利用者同士や地域住民と交流したり、事業所間の連携による防災体制や日々の支援における協力体制も築いている。また、施設長をはじめ職員の多くは地域出身者で利用者と顔見知りの関係にあり、居心地よく過ごしてもらうよう配慮が行き届き、利用者の尊厳の保持やプライバシー保護の徹底を図りながら利用者本位の支援を実践している。

自己評価および外部評価結果

グループホーム 和夏

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時から地域密着型の理念を作成しており、日頃より職員会などで職員全員が、その意味を共有し、実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型の事業所独自の理念がある。毎月の職員会で話し合い、ケアの内容を振り返りながら、職員は、利用者を年長者として敬うとともに、いつも笑顔で利用者の立場に立った支援を心がけ実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とは離れた立地条件のため、近隣との交流はないが、隣接の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターの利用者と交流している。また、町内の運動会や祭りにも出かけて交流のきっかけづくりに努めている。	民家と離れており自治会には加入していないが、管理者、職員が、地域の情報を把握し、敬老運動会や祭り、こいのぼりの川渡しなどに参加するなど交流している。また、併設の介護施設等の利用者や行事等を通して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と連携して、家族や地域の方々への認知症介護についての相談窓口となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーである行政や家族、地域の代表からの意見や要望が出されている。ホームへの理解も得て、双方向的に意見を交わし、意見等は記録している。	事業所の取り組みを報告し、委員からの意見は得ているが、評価結果は口頭での報告になっており、意見交換の記録が残っていない。	運営推進会議での意見を今後のサービス向上に活かしていくために、評価結果を受けての課題抽出や検討なども期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者に相談したり、アドバイスももらうなど協力を得ている。事業所を開放して地域の民生委員などの研修の場としている。	運営推進会議や介護認定調査の機会を捉えて相談したり、事業所が認知症ケアの相談窓口になるなど、日頃から協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会の中で身体拘束廃止の意味について話し合うなど、拘束をしないケアの確認をしている。また、日中から22時まで玄関を開放するなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会や内部研修を通じて職員の理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出傾向のある利用者が外に出た場合は制止することなく、納得のいくまで一緒に散歩したりしながら支援している。鍵をかけないことによるリスクに関して家族と話し合いもできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の尊厳について考え、正しい行動のもと介護に当たっている。虐待を見過ごすことのないよう、職員がお互いに注意し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会で成年後見制度について説明するなど、権利擁護の理解や尊厳の保持も含めて職員への周知徹底に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分説明して納得してもらうよう取り組んでいる。家族が県外の場合にはその後にも連絡を取り合うなど、理解してもらうよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見等を受入れる姿勢を持ち、今後の運営につなげていくよう心がけている。年一回開催する家族会でも、家族のみで話し合う時間も取り、意見を出してもらうようにしている。	食後のコーヒータイムといった利用者がくつろいだ時に表出される思いの把握に努めている。また、家族の面会などの機会を捉えて情報を共有したり、家族会では家族のみで話し合う時間も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会では施設長より法人からの連絡事項なども出されており、それについて職員からも意見が出されるなど、共通認識を図っている。	職員会や申し送り時など、機会を捉えて職員の意見や提案を出してもらうよう配慮している。業務分担の変更や行楽等の食事形態などについての話が出され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を通して代表者は職員の勤務状況等を把握し、職員も働きやすい職場環境や人間関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員研修に積極的であり、職員は希望する各種の研修に参加して技術向上のトレーニングに励んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の相互訪問や研修会を通して意見交換を行い、サービス向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭訪問時に、ご本人にご家族を交えて不安や問題点を充分話し合い、解決方法を提案するなど信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面接時に情報収集を行い、ご家族の不安や要望を充分聞きながら、生活支援の説明を行い信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスや援助について、早期に把握し、希望にそった内容になるように計画している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の基本として、スタッフと利用者が共存し合い、日々の個々の暮らしに付き添うことを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	常に協力体制を持ちながら、家族の立場も考えて、本人の気持ちを見守りながら両者を支えている担当スタッフとの関係もできている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	友人から定期的に電話があったり、趣味活動も継続している。また、面会時の交流がスムーズにできるよう気配りするなど、馴染みの人や地域との関係が継続するよう支援している。	隣接の特別養護老人ホームの馴染みの利用者との交流や、出身地域の方々のデイサービス利用時に交流したり、電話でも知人と交流できるように支援している。また、親族に会いに行ったり、自宅を見に行くなど、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同士の会話からも一つの家族としての関係が築かれている。弱い立場の人に手を差し伸べるなど、孤立することは全く見られず、スタッフも側面的に十分支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退居後も、地域で再会の折には近況を聞いたり、思い出話をするほか、必要に応じて相談や支援もしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	暮らし方の希望や意向に沿えるように努めている。把握が困難な場合は、家族から情報を得ながらできる限り本人の気持ちになり、意に沿うよう心がけている。	職員の担当制により、日々の関わりの中で、利用者の希望や意向を把握をしている。意思疎通が困難な方には家族の協力も得て汲み取るようにしている。また、年2回、生活改善調査表で嗜好品や思い、希望等の把握を行い、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	初期段階において、家族やケアマネジャー、ソーシャルワーカーなど関係者から情報収集を行うとともに、入居後も聞き取り等を通して把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活パターンや心身の状況、利用者個々の残存機能を把握することで、その人らしさを発揮できるように常に気配りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎のモニタリング、6か月毎のアセスメント、担当職員の意見、家族の要望等も踏まえ、職員会で検討し、本人の現状に沿った介護計画を作成している。退院後などの状況の変化に合わせて随時見直しを行っている。	利用者、家族の意向を確認するとともに、担当職員によるモニタリングや気づきも踏まえ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。基本的に6か月毎に見直し、利用者の状況の変化に応じて、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を客観的に把握しつつ、会話の内容なども個別に記録している。その記録をもとに職員間で現状を共有し、日頃の援助や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一的なケアと、その日その日に解決が求められるケアに発想を活かして柔軟に対応することを常に念頭に置き、日々の業務に取り組むよう申し合わせている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握したうえ、利用者がその都度参加できる体制づくりに配慮し、何よりも安全な生活を保障した支援を心がけている。また、地域の婦人部の踊りや生バンドの演奏など豊かな暮らしの支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点でかかりつけ医を把握し、協力医などに変更の場合は説明し同意を得ている。通院には管理者が同行しており、受診結果は家族へ連絡するとともに、スタッフとも情報の共有を図っている。	これまでのかかりつけ医に継続して受診できるようにしている。また、利用者、家族の判断で協力医療機関をかかりつけ医としている例もある。かかりつけ医、専門医の受診には管理者が同行しており、受診結果は面会時や電話で家族に報告し、職員間は引き継ぎ簿で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや体調の変化は、管理者に報告し、週1度の訪問看護の際に相談などしている。介護職員は日常の関わりの中なかで常に気を配り、報告を励行し早期対応につながるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や病院関係者との情報交換や現状の把握などに努めている。また、退院に向けての調整などに配慮し、各病院のソーシャルワーカーとも連絡をとりながら関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の変化等に応じて早い段階から家族の意向も確認しながら法人関連施設への住み替えなどの対応をしている。また、終末期のケアにおいても、家族の意向に沿って医療関係者と連携し、家族からも安心と納得を得られる事業所を目指していく。	入居時に看取りに関する指針に沿って事業所の対応できることを説明している。利用者の状態変化に応じて家族の意向を確認しながら、主治医との連携により、看取り支援を行った例もあるなど、家族等が納得して終末期を迎えられる支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急性が高いと判断した場合や、事前に予測を立てることなど、その時々での対処方法を職員会を通じて指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画のもと、特別養護老人ホームと協力体制をとり訓練を行っている。立地条件から地域住民の協力は難しいが地区長に相談をしている。非常食は常備している。	災害発生時対応マニュアルに沿って、併設施設と合同で年2回の避難訓練を実施している。うち1回は消防署の協力のもと防火訓練を実施している。地区長に緊急時の際の協力依頼を了承を得ているが、地域住民の訓練への参加までは得られてない。避難路の確保や非常用の食料等は準備できている。	地域と離れた立地条件でもあり、災害時には地域からの支援は欠かせないことから、運営推進会議でも災害対策について話し合い、地域住民の参加、協力の実現を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権や尊厳を保ち介護を行うこと、個々の生活歴や人格を大切に適切な言葉がけをすることなど、常に職員会にて周知している。また、マニュアルに沿って個人情報や他人に漏らさないこと、プライバシー保護についても徹底している。	プライバシー保護に関するマニュアルをもとに、毎月の職員会で徹底し、トイレ誘導時などケアの場面での対応に留意している。気がついた時はその都度、管理者が注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の支援を基本に、傍らで内面の思いを感じとること、会話を通じて利用者に自己決定をしてもらうなど、日々の場面づくりに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは人として当たり前の自由で安心できる生活の場であり、少人数の生活空間の中で、入居者のペースを優先し、見守る支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた着衣や、希望に応じて基礎化粧品も購入するなど支援している。また、美容院を定期的にご利用したり、男性は髭剃りや散髪などで整容するなど気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は楽しいものであること、美味しいものを提供すること、家庭の一般の様子と変わりが無いことを常に心がけ、スタッフも同じものを食するとともに、準備や後かたづけ、おはぎやいなりずしを入居者と一緒につったり、食後のコーヒータイムでの語らいを大切にしている。	料理の下ごしらえからテーブル拭き、下膳、食器洗いなど、利用者も一緒に行い力を発揮する場となっている。献立は利用者の希望や嗜好に配慮するとともに、時々、手作りのおやつも一緒に作るなど、楽しい場面づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の水分摂取やコーヒータイムなどを通して、1300ミリリットル以上の摂取を確保している。栄養管理面でも高たんぱくのゼリーなどで補うなど個別に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に適した歯ブラシを準備し、毎食後歯磨きを行い、歯間ブラシや舌用ブラシも使用し口腔ケアをしている。義歯や残歯の清潔保持についても可能な限り本人ができるように援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿取りパッドは殆どの方が使用しているが、それぞれの残存機能の維持を図るため、全員トイレでの排泄支援をしている。歩行できない方も生活リハビリテーションとして、トイレでの立位運動を取り入れている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、パッドに頼らずできるだけトイレで排泄するよう、個々に応じて声かけ支援をしている。トイレでの排泄を嫌がる利用者には声かけの工夫をしたり、夜間も、利用者の状況に応じてトイレに誘導するなど、個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にアルカリイオン水を摂取したり、運動を取り入れるなど、入居者個々に応じた支援をすることで便秘予防の効果も出ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後を入浴の時間帯にしているが、外出や通院などの状況に応じて柔軟に対応している。利用者は個々に入浴時間も違っており、毎日入浴する方もいる。また、誘導の際もそれぞれに合わせた言葉かけをするなど工夫している。夜間の入浴希望者はいない。	利用者の希望に沿って、毎日入浴したり、少なくとも2日に1回は入浴できるように支援している。必要に応じて清拭対応したり、見守りや介助支援、性別対応の希望など、利用者個々の状況に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間も入居者個々に異なり、朝まで安眠できる方、朝まで寄り添って安心感を持ってもらう方など、それぞれの状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の閲覧や、疾病と薬剤の関係など必要に応じ職員に指導している。服用確認の徹底や誤薬防止の確認、処方の変更の際の引継ぎなども徹底している。また、急性的な投薬には、職員会や引継ぎ連絡帳などで共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職歴からリーダー的な存在感があったり、新聞の読み聞かせ、得意な手踊りの披露、子どもの頃の思い出話、習字の達人な方など、毎日それぞれのお好みや得意な面での役割を發揮してもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設の特別養護老人ホームには何かにつけて出かけている。また、日常的に自由に散歩したり、買い物や外食、四季折々の花見や行楽などにも出かけている。入居者全員で外出する際は、特別養護老人ホームの応援も得て支援している。	気候の良い時には、車いすの利用者も一緒に毎日近くの公園に散歩に出かけている。また、季節に応じた花見など、併設施設の職員の応援を得ながら利用者全員で出かけた、希望に応じてふるさと訪問などの支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物代行や通院の際の支払いなど、個人でできる方は自己管理をしている。小額の現金を管理している方も支払いや残金の確認などを見守りながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持し、家族と自由に連絡を取ったり、希望に応じて居室から話せるよう子機を取り次いだりしている。定期的に電話があったり、手紙も届いている。また、ケアプランに沿って家族と電話で話してもらう例もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は西日を避け、冬は暖かい日差しが差し込む南に面した条件の下、共用のロビーでは太平洋を望み四季を感じることができる。デッキには猫が住み着き、利用者との触れ合いがアニマルセラピーにつながっている。	居間、台所、浴室は、太平洋が眼前に広がり、明るく居心地の良い空間になっている。つるし柿やシクラメン、ランの鉢花を置き、季節感にあふれている。猫を見ながらくつろいだり、金魚を觀賞しながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は一箇所にはとどまらず、自室で休んだり、ロビーでくつろくなど思い思いの場所で、語り合いながら、また、独りでも自由に行動してもらうよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や大正琴、三味線、家族写真などを持ち込み、それぞれ個別性のある居室となっている。また、家で使っていたテーブルでお茶を飲むなど家庭生活のイメージを継続している。	使い慣れた椅子や家具を置いたり、仏壇、家族写真など、利用者それぞれの自宅の部屋がそのまま引っ越してきたような居室となっており、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本は安全な介護であることを忘れず、出ることや、可能なことを活かして、残されている機能が発揮できるように、生活の援助を行っている。		

ユニット名：

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				